

「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に登録されてから5年。癒しを求め、高野・熊野を訪れる人は増え続けている。なぜ人は高野・熊野に惹かれるのか。紀州の風土や歴史を描き続ける作家、神坂次郎氏と、和歌山県の美しい自然と文化を敬愛する仁坂吉伸知事が、高野・熊野の魅力について語り合う。

世界遺産登録5周年

高野・熊野に

知事対談

息づく「寛容の文化」

自然が生んだ
「混沌の優しさ」

仁坂知事(以下仁坂) 長年にわたって紀州の文化を追求し、旺盛な執筆活動を続けて来られた神坂先生に、高野・熊野を題材として和歌山の特徴などを

熊楠の真価を
見極めた人々

仁坂 県民の中には、そんな和歌山の自然を守ろうと活動された方が多くいます。南方熊楠さんも神社祀合で神社周辺の巨木が伐採されることに反抗しました。

神坂 熊楠という人は、名前そのものが熊と楠。*藤白神社にあるクスノキから名前をもらったので、自身も神社の申し子だと信じていた。「どうしても自分が和歌山の自然を守らねばならない」という意識があったと思います。1人での反抗で弱かったのですが、留置所に入れられても粘菌を見つけて持ち帰っている。そして、まるで凱旋將軍のように戻ってくるのです。熊楠を支えた田辺の町の人



和歌山県知事
仁坂吉伸 (にさか よしのぶ)

お伺いしたいと思います。まず熊野についてですが、熊野には多くの上皇や貴族が魂の救済を求めてやって来ましたが、その後は民衆化して蟻の熊野詣と言われる現象も起こりましたが、どうして熊野が巡礼の地になったのか。なぜ都の人々は熊野に神秘を感じたのでしょうか。



写真①熊楠が守った継桜(つぎざくら)王子周辺の一方杉。
写真②南方熊楠

仁坂 都から見ると辺境の地はたくさんあるのに、熊野が聖地と讃えられたのは、自然の力が大きいような気がします。私は世界中の森に行きましたが、和歌山の森の特徴は色々なものが混ざっていることだと感じます。高山植物が海岸沿いにあつたり、海岸線に自生するウバメガシが山の中にあつたり、常緑広葉樹林の中にトチノキやケヤキもある。そういう風に色々なものが混ざって、それが一種の幽玄な気分を醸し出したんじゃないでしょうか。それは「混沌の優しさ」のようなものだと思います。

どうしても
自分が和歌山の自然を
守らねばならない

たちがまた素晴らしい目撃した人ですから避けられてもおかしくないのに、親愛の情を持って迎えてくれたんですね。仁坂 田辺の人々は、彼の本当の価値を見出していたのでしょうか。その流れが今でも十分にあると思います。平成18年に田辺市がつくった南方熊楠顕彰館では熊楠が研究したことをそっくり保存しています。見せるためだけの施設ではなく、熊楠が遺した膨大な資料の格納庫でもあるわけ

神坂 昭和天皇は熊楠を*歌にも詠んでいます。無名の老学者を御製に詠んだのは今までにないことです。仁坂 それから天皇陛下自らが*神島に渡って、熊楠の話の話を聞くということまでなさっている。日本の君主ですから「皇居へおいで」と言ってもよろしかったのに。神坂 天皇陛下の前に行くというので、熊楠の奥さんはずいぶん心配したんです。熊楠はちよつと蓄膿症があったので、鼻が垂れないかと。奥さんは

す。そして学会の方々も熊楠の真価をちゃんとわかっていった。大英博物館も日本のアカデミズムのトップの方々も熊楠を尊敬している。昭和天皇もそうです。これは本当に素晴らしいことだと思います。



神坂次郎 (こうさか じろう)

Profile

1927年和歌山市生まれ。小説家。82年『黒潮の岸辺』で日本文芸大賞受賞。87年『縛られた巨人 南方熊楠の生涯』がベストセラー・ロングセラーとなり、熊楠ブームが起きる。92年の皇太子殿下の熊野行啓に際しては、著書『熊野行幸』を約2時間にわたって御進講した。2002年「南方熊楠特別賞」受賞。



主な著書

『縛られた巨人 -南方熊楠の生涯-』(新潮社)
天才と称された在野の学者・南方熊楠の生涯を、膨大な資料から読み解く。

『紀州の方言』編著(有馬書店)
紀州の方言を解説した、和歌山に生まれ育った神坂氏ならではの知識と経験が生きた一冊。

*印の用語は13ページに解説があります。

神坂次郎 × 仁坂吉伸

高野・熊野に息づく「寛容の文化」



空海も偉大ですが、
それを受け継いで
守った人も偉大であった

仁坂 そうですね。地位の高かったお坊さんたちは、日本のトップとして学びに行つてます。しかし空海は日本の既成の宗教のトップではなかった。全国を歩き、自らの知力を高めて中国へ行って、あつという間にトップに上り詰めたんです。これは凄いなあ。

神坂 しかも中国そのままではなく、ちゃんと日本風にして広めたんです。若い頃に著わした『三教指帰』もそうですが、世の中には思いもかけないような異才というのがいるんですね。

仁坂 その空海が、密教の本拠地として高野山を選んだわけです。山上の広々とした空間が空海思想に合ったんでしょう。

神坂 高野の山上にあれば広い敷地を見つかるまで、空海はずいぶん歩き回ったことでしょう。歩く宗教ではないかと思っくらしいです。

仁坂 そして高野山は真言宗の聖地として、ずっと守られてきました。比叡山は焼き討ちにあつたり、政治に過度に口を出したりで栄枯盛衰がありましたよね。適度な政治力は必要だったと思うんですが、最終的に学問と宗教の場と

して高野山は残つた。なぜ残つてきたんだろうかと、私は色々考えるんですが…。

神坂 空海も偉大ですが、それを受け継いで守つた人も偉大であつたと思えます。天の配剤でそういう人物がいたからこそ守られたんじゃないでしょうか。

仁坂 平安時代の後期には、覚鑿上人と対立したことがありますね。覚鑿が高野山を下山されたことが、根来寺を建立するきっかけになりましたが、それから安土桃山時代には、応其上人が秀吉と渡り合つて高野山を守っています。**神坂** 歴史的に見て高野山は、政治的にはあまり動いてないんですね。表面上は。

仁坂 内側ではちゃんと動いているんですか。

神坂 もちろん動いています。そうでないと、ああいふ山は脆くつぶれますからね。表沙汰にならないようにうまく動いていた。それも凄い人がおられたから出来たことではないでしょうか。

高野、熊野の寛容を伝えてゆく

仁坂 高野・熊野の文化は、和歌山という風土の中で培われてきたものだ

伐採に抵抗した熊楠は、その事がわかつていたんでしよう。ひと足早く。

仁坂 高野・熊野の素晴らしい出来ただけ多く、世界の人も味わつていただくことが我々の務めだと思います。それと共に、千何百年続いた文化を守つていかなければいけない。世界遺産に登録されてからボランティアの方々もますます熱心に活動をされています。例えば、草が茂つて歩きづらくなつた熊野古道を、「大辺路刈り開き隊」というグループが整備して下さつてるんですよ。そして、語り部さんもたくさん生まれて、歴史を語り継いで下さつてます。

神坂 私は今後、子どもたちの語り部も育ててほしいという希望を持っているんです。何か一つだけでもいいから覚え



熊野古道

熊野ではないかと思えます。**神坂** 高野・熊野に来られる方は、心に傷を持った方が多いんですが、ただ歩いている間に癒されてしまふんです。森林ますし、雄大な海を見ても、あまりの美しさに感動しますしね。**仁坂** そう言えば、先生は若い頃に山の中で暮しておられたそうですね。**神坂** そうなんです。私は建設の仕事をしておりましたから、ずっと山での現場暮らしでした。当時は何とも思いませんでしたが、歳を取つてくるとあの山暮らしが懐かしい。そんな風に心に深く残る場所が、和歌山にはいっぱいあります。これは宝物ですね。神社の木の



高野・熊野を守ってきた 昔の人々のよき心を、 子どもたちが引き継いでくれるように

和歌山の経済力も大切です。我々が栄え、ここに住み続け、永遠に高野・熊野を守つていかなければいけない。やることはたくさんありますが、がんばっていかねければと強く思っています。本日は本当にありがとうございました。

思います。つまり、寛容の文化ですね。例えば高野では、奥の院に行けば色々な宗派のお墓が並んでいます。熊野には、「老若男女を問わず貴賤を問わず。浄を問わず信不信を問わず」という有名な言葉があります。今でも宮司さんが「キリスト教式にお参りして下さいもいいですよ」と言つておられます。人間には対立軸というものがありますが、それを先鋭化させずに「まあ、相手の立場もあることだし」とうまくやってきたわけです。

神坂 まつ先にそれを表明したのが熊楠かもしれません。万物共生。和歌山にはそういう思想があるんです。熊楠は小さな粘菌でも大木でも皆同じ生き物であると言っている。でもそれは熊楠が発見した事ではなく、実は昔からある考え方なんです。どういふものでも、価値は皆同じであると。**仁坂** 「その価値は皆同じ」というのは大事ですよ。最近と同じ人間同士でも価値が違うとするような風潮があります。宗教でも宗派が違うと争いますし、戦争にもつながります。価値に差を付けたら利益を独り占めしたり、それではもうだめだと日本の人も世界の人にも気付き始めている。そういう行き詰まった気持ちを癒してくれるのが高野・

て観光客をガイドしたらどうかと。腕章なんか巻いて(笑)。**仁坂** それは面白い！ぜひプロモートしてみたいですね。

神坂 地域の歴史を知れば郷土愛にもつながりますし、観光客も喜んでくれますよ。**仁坂** 行政も力を合わせてやっていくべきことは多いと思います。世界遺産やその周辺の雰囲気を守つていくために、昨年、景観条例を作りました。それから、たくさんの方に来ていただくために観光にも力を入れたい。そして教育。高野・熊野を守つてきた昔の人々のよき心を、子どもたちが引き継いでくれるように。そのためには、

*印の用語は13ページに解説があります。